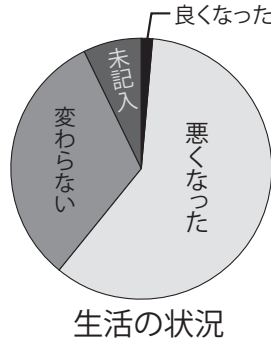


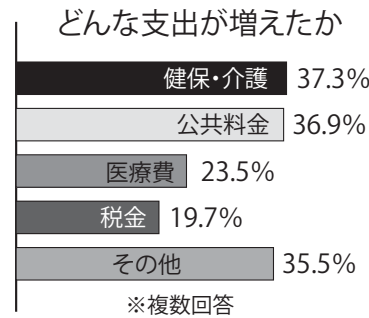


返信されたアンケートの山、1884通(4月10日現在)



日本共産党区議団が行ったアンケートに、沢山の切実な声が寄せられています。四月十日現在で一八四四通が返信されています。

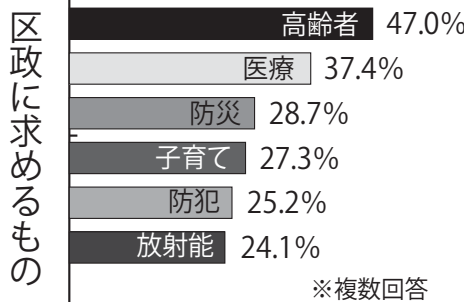
アンケートに 区民の切実な声



苦しくなったが全体の約六〇%
くらしについての質問には、

「苦しくなった」が約六〇%をしめ、区民の生活がさらに悪くなり続けている

ことが明らかにになりました。「変わらない」も約三割で、くらしが好転する兆しはありません。収入が減った理由の一位は年金で二九%、給与も一七、九%でした。支出が増えたものは、健保・介護などの保険料が一位で、公共料金、医療費、税金と続いていて、物価よりも税金や公共料金などが区民のくらしを圧迫していることがわかります。



高齢者福祉がトップ

区政要望では高齢者福祉が依然としてトップで、医療、防災と続き、子育て、防犯、放射能対策、雇用、教育、中小企業対策なども高い要求となっています。

アンケートにはこんな書き込みもありました。「私の収入は年金ですが、税金、健康保険、介護保険を引かれると一月十三万円ほどですが、

部屋代のほかに医療費がかかりますので生活は苦しく、一日はぼろ一食です。楽になりました」(六十代男性、年金) 区民のくらしはこのように深刻です。区民の要求に区政がどうこたえていくのかが問われています。

日本共産党区議団は、今回寄せられた沢山の区民のみなさんの要求やご意見にこたえるために全力で頑張ります。



予算特別委員会や、その他の委員会でも、区議団全員が、アンケートに寄せられた区民のみなさんのご意見を生かして充実した質問をすることが出来ました。

むだ遣いやめくらしを応援する 条例と予算組み替えを提案

今議会では日本共産党区議団は、アンケートにもとづき、①要介護四、五の方への月一萬円の介護手当の支給、②十八歳までの医療費無料化、③費用弁償の廃止という三つの条例提案をしました。

また、区役所の建て替えのための基金など不要不急の予算を削減し、条例提案の内容を実現する財源を確保して、住宅リフォーム助成の創設、放射能対策、出産祝い金の創設、特別養護老人ホームの食事代の助成など、福祉の充実のための予算を増やす予算組み替え動議も提案しました。

アンケート生かし、論戦・提案

区民の声を本会議でも委員会でも

日本共産党区

議団は、寄せられたアンケートをもとに議会での論戦に臨み、地域の要求実現の運動にも取り

組んでいます。

本会議の代表質問では、アンケートの回答のくらしが厳しくなったという声の多さをあげ、「区政として区民のくらしをどのように応援していくか」を区長に問いました。

また、一般質問でもアンケートに寄せられた「介護をしている母親がいなくなり、翌日に別棟の廊下で寝ているのがみにつかった」という話をとりあげて、待機者解消に見合う区の計画と、東京都に対して土地代の補助制度の復活を求めよと迫りました。



発行 日本共産党
葛飾区議会議員団
5654-8520(直通)
責任者 濱川ひとし

日本共産党
葛飾区議団だより

日本共産党区議団のホームページをごらんください
<http://www.cpi-media.co.jp/jcp-katusika/>

